

# 第3期吹田市教育振興基本計画 吹田市教育ビジョン(概要版)

## 吹田市教育ビジョンとは

- 「吹田市教育ビジョン」は、国・社会の動向や吹田市の現状と課題を踏まえ、吹田市がめざす教育の基本的な方向性とその施策を明らかにする計画です。
- 令和7年度(2025年度)から令和11年度(2029年度)までの5年間を計画期間としています。

## 教育理念

いのち  
生命かがやき

ともにつながり

あす  
未来を拓く吹田の教育

## 教育理念を実現するための3つの基本目標

教育理念を実現するために、3つの基本目標を掲げます。

### 基本目標 1

総合的人間力の育成

### 基本目標 2

社会全体の教育力の向上

### 基本目標 3

豊かな教育環境の整備

## 基本目標を達成するための6つの基本方向と3つの重点課題

基本目標を達成するために、6つの基本方向と3つの重点課題を掲げます。

基本方向	1 幼児教育を通して総合的人間力の基礎を培います	▶	① 質の高い幼児教育の提供 ② 小学校との円滑な接続を重視した教育内容の充実 ③ 多様なニーズに応じた子育て支援の推進
	2 義務教育を通して総合的人間力の基礎を培います	▶	④ 確かな学力の育成 ⑤ 豊かな心の育成 ⑥ 健やかな体の育成 ⑦ 多様な課題に対応する力の育成 ⑧ 小中一貫教育の推進
	3 一人ひとりが尊重される学びを推進します	▶	⑨ 児童・生徒を支援する生徒指導の充実 ⑩ 特別支援教育の充実 ⑪ すべての子供の学ぶ機会の確保
	4 安心・安全で豊かな学校環境を整備します	▶	⑫ 教職員の資質能力の向上 ⑬ 教員の働き方改革の推進 ⑭ 学校・園運営体制の強化・多様な主体との連携 ⑮ 安心・安全な学校・園の整備 ⑯ 学校規模適正化等の教育環境の整備 ⑰ 教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
	5 青少年の健やかな育ちを支援します	▶	⑱ 地域全体での青少年育成活動の推進 ⑲ 遊びや体験活動の推進 ⑳ 子供・若者の支援に関する取組 ㉑ 放課後の居場所づくりの充実
	6 生涯を通じて豊かな学びを提供します	▶	㉒ 生涯学習プログラムの充実 ㉓ 循環型の生涯学習社会の実現 ㉔ 図書館を通じた豊かな学びの場の提供 ㉕ 文化財を通じた豊かな学びの場の提供

### 重点課題 1

誰一人取り残されない  
学びの保障の推進

### 重点課題 2

誰一人取り残さない  
子供・若者支援体制の充実

### 重点課題 3

教員の  
働き方改革の推進

# 吹田市が取り組む3つの重点課題

## 重点課題 1

### 誰一人取り残されない学びの保障の推進

不登校児童・生徒数が増加する中で、不登校の状況にあることによって学びにつなげることができない児童・生徒をゼロにするため、一人ひとりに応じた多様な支援を行い、誰一人取り残されない学びの保障を推進していきます。

取組

#### 1 すべての児童・生徒の学びの場を確保し、学べる環境の整備

主な内容: 校内教育支援教室の充実、教育支援教室「あるくの森」の機能強化、多様な居場所づくり

#### 2 心のSOSを見逃さず、多角的・組織的な支援の充実

主な内容: 1人1台の学習用端末を活用した心や体調の変化の早期発見、専門的な視点からの対応の充実、相談窓口の充実等

#### 3 安心して学べる学校づくりの推進

主な内容: 授業改革、学習支援の充実、いじめのない学校づくり、学校風土の見える化ときまりやルールの見直し



校内教育支援教室の様子

## 重点課題 2

### 誰一人取り残さない子供・若者支援体制の充実

子供・若者の状況に応じて必要な支援が特定の年齢で途切れることなく行われ、自分らしく社会生活を送ることができるまで切れ目のない支援を行えるよう支援体制を強化していきます。

取組

#### 1 複雑化・複合化した課題を有する子供・若者の早期発見・早期支援

主な内容: 子供・若者支援の周知・支援につながるきっかけづくり、アウトリーチ支援（訪問支援）の強化等

#### 2 誰一人取り残さない子供・若者支援を行うための関係機関連携

主な内容: 子ども・若者支援地域協議会における連携の強化、学校との連携等

#### 3 切れ目のない支援体制の強化

主な内容: 中学校卒業等、特定の年齢で途切れることなく継続した支援を行えるよう体制を強化



子ども・若者総合相談センター案内カード

## 重点課題 3

### 教員の働き方改革の推進

教員が多様な子供たち一人ひとりに応じたより良い教育を提供することができるよう、教員が心身ともに余裕をもって充実して働ける環境を整備し、教員のウェルビーイングの向上を図ります。

取組

#### 1 学校組織全体の意識変革

#### 2 保護者・地域の理解及び協力の促進

#### 3 業務の軽減・適正化

#### 4 多様な人材・手法の効果的な活用

#### 数値目標（指標）

##### ① 令和8年度（2026年度）中に

- 1. 月当たり時間外在校等時間80時間以上の教員を0に
- 2. 月当たり時間外在校等時間45時間以上の教員を半減

##### ② 令和11年度（2029年度）中に

- 1. 月当たり時間外在校等時間30時間以上の教員を0に

